



願いをこめた

文様ずかん

熊谷博人 監修

調べる学習百科

監修のことば

みなさんが着ている洋服や毎日使っている食器などには、いろいろな絵や形がありますね。これらは「文様」といいます。

かっこよかったり、かわいかったり、きれいだったりしますね。でも、それらの文様には、ただ「きれい」や「かわいい」だけではなく、それぞれに意味があります。健康を願ったり、幸せを願ったり、発達と仲良くなれるように願ったり、危険なことにならないように願ったり、それぞれに意味が隠れています。

このように願いを込めた文様は古くから伝わるものが多く、昔の人たちは日々の暮らしの中から、きれいな形やおもしろい形を考え出して文様にしました。文様は、昔から生活と深い関係がありました。

蜻蛉や蝶、桜や菊の文様にも、ひとつひとつに意味が隠れていますよ。どんな意味か、この本で調べてください。意味がわかれば、自分の着ている服がもっと好きになるでしょう。毎日使っている食器も大切にあつかうでしょう。

こうした昔の人の知恵や願いがこもった文様を参考にして、自分でも新しい文様を考え出してくれたらうれしいです。

熊谷博人

この本の使い方

「小紋染め」の文様です。小紋染めとは、小さな模様の染め物という意味です。着物の布につける型紙をもとにした文様です。

長方形の部分では、文様の図案を紹介しています。江戸時代から明治時代の文様の見本帳をもとにしています。

文様を使った商品を紹介しています。

ミニコラムでは、文様の言葉や関連した言葉などを解説しています。

グループに分けて文様を紹介しています。

コラムページでは、文様の見方や楽しみ方をさらに知ることができます。



目次

監修のことば・この本の使い方 2

文様の世界 4

コラム 吉祥文様って、なに? 8

第1章

植物や動物の文様

松竹梅 10

桜 12

菊 13

銀杏 14

コラム 宝物がいっぱい? 15

いろいろな花 16

いろいろな植物 18

植物(食べ物) 20

コラム なぜ「見立てる」? 21

鶴亀 22

雀 23

雁・鶯 24

いろいろな鳥 25

兎 26

コラム 文様の型染め 27

いろいろな動物 28

水中の生き物 30

蝶 31

昆虫など 32

第2章

形や文字をもとにした文様

点 34

円・半円 35

線・縞 36

曲線 37

三角形・四角形 38

菱形 40

六角形・八角形 41

文字 42

歌舞伎の文字 43

コラム 外国と日本を行き来した文様 44

第3章

ものや景色から生まれた文様

文房具 46

おもちゃ 47

楽器 48

道具 49

仕事道具など 50

文化 51

乗り物 52

町の風景 53

暮らしの風景 54

コラム 文様を考えてみよう 55

行事 56

流水・波 58

雲・雨など 59

雪 60

索引 62



桜

桜は多くの人に愛されました。そのため、春に咲く花ですが、季節を問わず「はなやぎ」を表す文様として使用されました。



桜散らし

(さくらちらし)

「桜花」文様ともいいます。2種類の桜の形が入っている文様です。満開の桜も、散るときの桜も人気がありました。



桜(さくら)

桜の木の幹まで描かれた文様です。江戸時代の中ごろには花見の名所が作られて、人々は桜を見ることを楽しみました。



▲桜の木

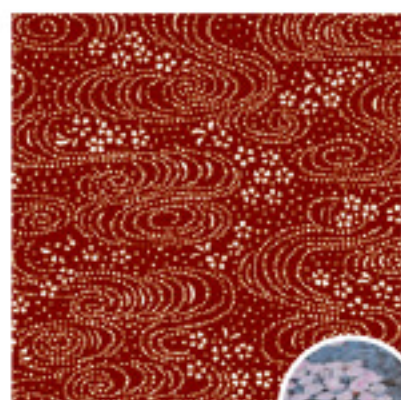


桜駒(さくらこま)

桜と将棋の駒の文様です。駒は馬を表し、「咲いた桜になぜ駒繋ぐ、駒が勇めば花が散る」とうたわれていました。



▲将棋の駒



花筏

(はないかだ)

▲川を流れる桜

散った桜の花びらが川を流れていく様子を表した文様です。かたまりになった花びらを筏*に見立てています。



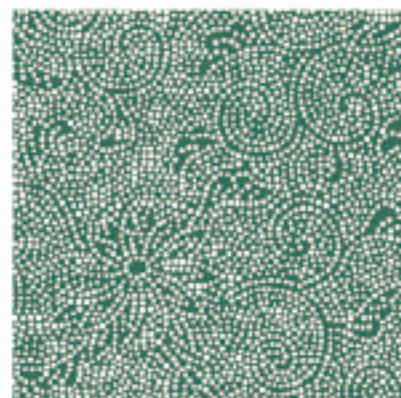
▲桜の文様の小銭入れ

(印傳屋上原勇七「F小銭入れ」)



菊

菊*は秋を代表する花ですが、文様は季節を問わず使われました。江戸時代、菊の栽培が急速に進み、菊の種類がたくさん増えました。



菊唐草

(きくからくさ)

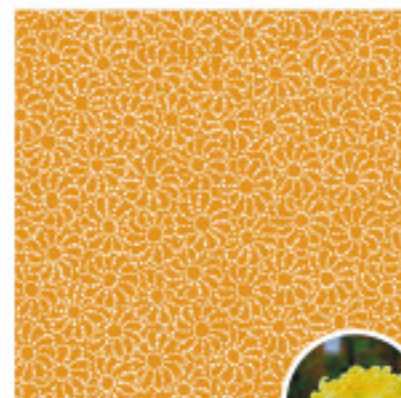
菊は、皇室や大名が使用した品格の高い文様です。唐草には、幸せが続くことを願う意味があります。



小菊

(こぎく)

栽培された大きな菊ではなく、野に咲く小さな花の文様です。素朴で可憐な小花の文様は、広く親しまれていました。



重ね捻菊

(かさねねじぎく)

満開の菊の文様です。菊は黄色い花もあり、花びらをまるくつけるので、太陽にたとえられることがありました。



▲黄色い菊



菊菱(きくひし)

菱形にした菊の花を半分に分けて、交互に並べました。文様を繋げると、いろいろなものに使えそうです。



菊底(きくひし)

江戸時代は、筒裳*がはやっていました。觀賞用に栽培している菊には、直接日光が当たらないように底*が加えられました。その様子の文様です。

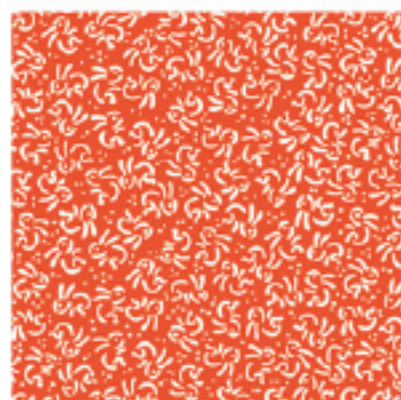


▲底



うさぎ 兔

兔の文様は安土桃山時代*以降に、日本に定着したと考えられています。「兔が月に住む」という伝説が伝わったのは中国からです。



兔 (うさぎ)

この文様はかわいらしいですが、長い耳と赤い目から、兎は強い闘争心を表すときに使われることもあります。



雪に兔 (ゆきにうさぎ)

雪の白に、兎の白を重ねた清らかなイメージの文様です。正面や横向き、後ろ向きの兎がいます。



▲ 白い兎



由縁兎 (ゆえんうさぎ)

「由縁」とは、左右均等に曲がった枠で囲まれた文様のことです。この文様は、由縁の中に兎が入っています。



波兎

(なみうさぎ)

兎の足の部分が波になっている文様です。波があるので、防火、火除けのお守りと考えられることもあります。



▲ 兎と月が描かれたティッシュケース
(漢文様「ティッシュケース くつろぎ月うさぎ」)

コラム

もんよう かた 文様の型染め

布の染め方には、文様の型紙を使った「型染め」や、筆などで文様を描く「手描き染め」などの方法があります。ここでは「型染め」の方法を紹介します。(協力：富田染工芸)



1



▲ 型紙の糊



2

富田染工芸さんには、12万枚も型紙があるんだって!



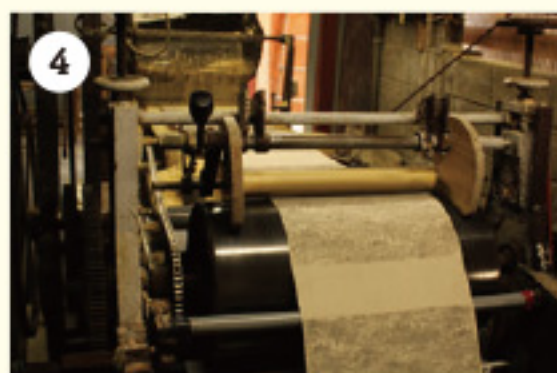
文様の上に白色糊を置いていきます。ムラが出ないように均一に行うのがプロの技です。



3

先ほど型紙を置いたすぐとなり、ぴったり貼がるように型紙を置き、また白色糊を置きます。これを繰り返します。

▲ 型紙をはがすと、1回目と2回目の文様がきれいに繋がりが、境目がわからない。



4

糊が乾いたら、生地全体を地色糊で染めます。生地を15～30分ほど蒸し、水洗いしたあと、乾燥させれば完成です!

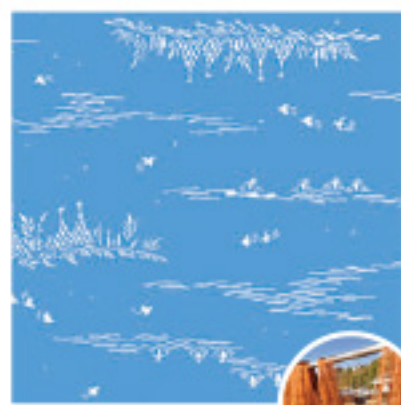


▲ 地色糊で染めたあと、生地がくっつかないようにおがくずをかける。



暮らしの風景

農業や漁業の風景も、文様になりました。江戸時代の人々が仕事をしている様子が感じられます。



網干風景

(あほしふうけい)



▲網干

漁に使う投網*を干し、まわりを千鳥が飛んでいる風景の文様です。豊かな収穫を願う意味があり、よく使われました。



田植 (たうえ)

「田植えはじめ」という神事の文様です。このように菅笠をかぶって行いました。

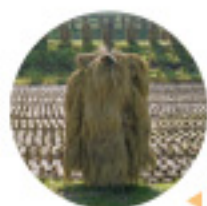


▲菅笠

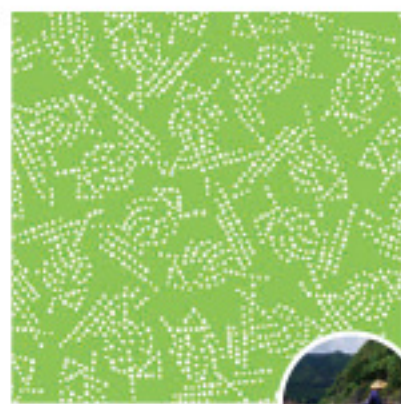


稲村 (いなむら)

刈り取った稲を束ねて干している風景の文様です。稲は、豊かな実りを祈るときの文様として使われます。



▲干された稲



筏乗り

(いかだのり)



▲筏

木材は、筏*を使って運ばれました。急流を下ることもあり、危険を伴う重要な仕事でした。



柴刈人形 (しばかりにんぎょう)

菅笠をかぶり、刈り取った柴を肩にかついでいる人々の様子です。鎌を持っている人も見られます。



▲菅笠と藁



五穀豊穡

(ごこくほうじょう)

鎌や杵など、米を収穫するときに使う道具と、米が描かれています。豊かな実りへの願いを表しています。

コラム

文様を考えてみよう

自分で新しい文様を考えてみましょう。この本の文様を参考にしてもいいですね。

猫が好きだから猫の文様を考えよう!

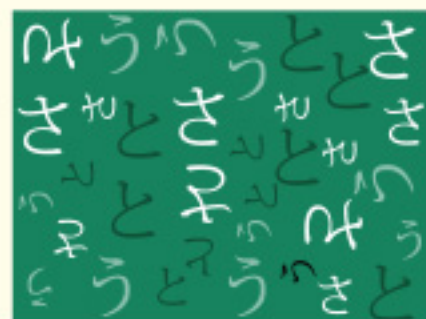


▲好きな色の市松文様(38ページ)に猫の形を入れた。

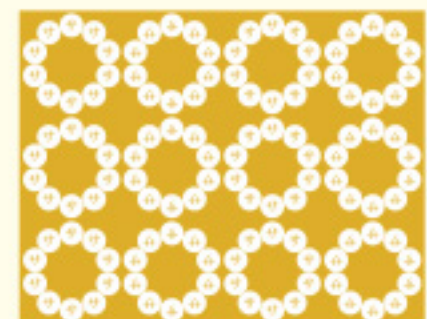


▲猫がボールを追いかける様子を、曲線を使って表した。

私の名前は「佐藤」。名前の文様を作ってみようかな。



▲「さ」「と」「う」という文字で作った。

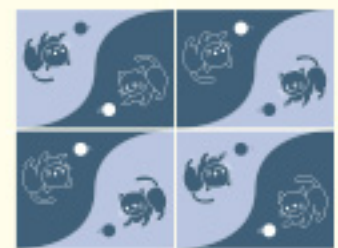


▲「サ」の文字を10倍丸く並べて「サ十」とした。

大きな文様にするには……



▲同じ形のもが同じ向きにあつたら、そこを重ねると文様が繋がる。



▲作った文様も繋げられるようにすれば、大きな文様になる。